



ご挨拶

内田, 一徳

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 12:1-2

(Issue Date)

2014-02-02

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005442>



ご挨拶

神戸大学理事・副学長
内田 一徳

第12回 歴史文化をめぐる地域連携協議会へのご参加、ありがとうございます。

神戸大学大学院人文学研究科では、大学の地域貢献事業の一環として、平成14年(2002)11月、地域連携センターを設置しました。それ以来、歴史文化の保全・活用を目的とする自治体やNGOとの連携事業を進めてまいりました。各事業をご支援いただいている皆様にあつく御礼申し上げます。

センターでは各年度末に、1年間の活動を集約する意味をこめて、県内の自治体職員・市民団体代表者・大学関係の方々一堂に会していただき、歴史遺産の保存・活用について議論する協議会(コンファレンス)を開催しております。これまで11回の協議会を開いてまいりました。

今年度の協議会のテーマは、「地域歴史遺産の可能性を考える」といたしました。現在、さまざまな分野で、大学と地域社会との関係が希薄になり、大学で蓄積されてきた知的資源や学術的な専門性が社会からの要請に応えられていないという指摘がされています。そうした指摘があるなか、人文学研究科地域連携センターは、この12年間、大学と地域社会とを結ぶべく、さまざまな試行錯誤と努力を重ねてきました。

それを通じてみてきた点の一つは、歴史資料の分析によって得られた学術的成果や知識を、専門領域だけに閉じ込めることなく、地域社会の人々がもつ知的欲求や関心に結びつけ、両者間のコミュニケーションを豊かにすることの重要性です。

歴史資料を通じた大学と地域社会の結び方は単純ではありません。自治体や地域リーダーのはたす役割の有無などによって多様な形をとりますが、そのなかには共通する成果と課題があるように思います。こうした点をセンターでは、昨年7月に刊行された『「地域歴史遺産」の可能性』(岩田書院)にまとめました。

この本の内容は、多岐にわたっていますが、歴史遺産を活かしたまちづくり事業を前進させるためには、これに対して関係者からご意見を賜るとともに、なによりも相互に課題を共有し、議論することが大切だと考えます。

そこで、今年度の協議会のテーマを、「地域歴史遺産の可能性を考える」とします。地域歴史遺産というものが、どのような広がりを持ち、それをめぐる人々の関係や、それを支える環境の構築がどうあるべきかなどについて、活発な議論をしたいと思います。

第Ⅰ部は、近年新たな成果をあげている諸団体の活動報告を通して、関係者同士の交流と相互議論を深める場とします。第Ⅱ部は、これまでの大学の取り組みについて報告し、その成果や課題について関係者から意見をいただき、今後の地域歴史遺産の保全・活用の意義やその可能性を考えたいと思います。

なお毎年開いておりますこの地域連携協議会は、地域歴史文化に関わるみなさまの相互交流の場であると考えております。協議会の間には、時間を取り、各団体の方々が交流できるコーナーやポスターセッションの場を設けました。多くの方々に交流していただければ幸いです。

最後になりましたが、本協議会を共催していただきました兵庫県教育委員会、ご後援を賜った淡路市教育委員会に対して、あつく御礼申し上げます。